

C. そ の 他

I 発表論文抄録

1. ヒトパルポウイルス (HPV/B19) の家族内感染

白石 廣行, 石田 望 (石田内科医院)
医学のあゆみ Vol.156, P115, 1991

伝染性紅斑 (E I) がヒトパルポウイルスによって引き起こされること, またこのウイルスが成人にも感染して小児への感染とは異なった関節痛, 肝機能異常, 出血斑等の症状を示すことなどを既に明らかにした。さらに妊婦への感染では胎児水腫の原因となることも報告されている。しかし, どのような経路で成人へ感染するかについてはほとんど報告されておらず不明である。そこで筆者らは仙台市東部で認められたE Iの流行において, ヒトパルポウイルスの家族内感染とくにE Iの小児患者から親への感染状況を調査した結果, 家族内でかなり高頻度にこのウイルスの家族内伝播が起こっていることを明らかにした。

2. Determination of N-nitrosodimethylamine in fish products using gas chromatography with nitrogen-phosphorus detection

Keigo Takatsuki, Tadashi Kikuchi

J. Chromatogr. 508, 357 (1990)

A simple and rapid gas chromatographic method for the determination of N-nitrosodimethylamine (NDMA) in fish products is described. NDMA is extracted from a dried sample with methylene chloride, mixed with n-hexane and passed through a silica gel column. NDMA adsorbed on silica gel is eluted with methylene chloride-diethyl ether (7:3) and the eluate is passed through a Sep-Pak alumina A cartridge column, on which NDMA is adsorbed. NDMA is eluted from the cartridge with diethyl ether-methanol(2:1) and the solution is injected into a gas chromatograph with nitrogen-phosphorus detection. This method does not use solvent evaporation and concentration in the cleanup procedure, which eliminates the loss of volatile NDMA and artifactual formation of NDMA in the analytical procedure. The detection limit is 0.5-1 $\mu\text{g}/\text{kg}$ and recoveries from salted pollack roe spiked at 40 and 4 $\mu\text{g}/\text{kg}$ were 96.7% [relative standard deviation (R.S.D) 3.6%] and 85.0% (R.S.D. 6.8%) respectively.

3. Gas Chromatographic-Mass Spectrometric Determination of Six Sulfonamide Residues in Egg and Animal Tissues

Keigo Takatsuki, Tadashi Kikuchi

J. Assoc. Off. Anal. Chem., 73, 886 (1990)

A gas chromatographic-mass spectrometric method using selected ion monitoring mode for simultaneous determination of 6 sulfonamides in egg and edible animal tissues has been developed. Sulfonamides are extracted from a sample with acetonitrile. The extract is passed through a silica cartridge column and concentrated. Diazomethane in ether is added to methylate sulfonamides. After evaporation, the residue is dissolved in methylene chloride and cleaned up by silica gel column chromatography. The methylene chloride eluate containing sulfonamide-methyl derivatives is evaporated to dryness, redissolved in ether and partitioned between 6N hydrochloric acid. The acid phase is made alkaline, extracted with ether, and the ether solution, after concentration, is analyzed by gas chromatography-mass spectrometry in selected ion monitoring mode. Average recoveries from egg and silver salmon fortified at 1 and 0.2ppm levels with 6 sulfonamides are 99.2 and 84.3%, respectively; coefficients of variation are 7.03 and 11.20%, respectively. Detection limits are 0.01-0.05ppm.

Ⅱ 学 会 发 表

学 会 発 表

○印 発 表 者

1. GC-MS, SIMによる養殖魚中のオキシリン酸の分析法
○高 槻 圭 悟 菊 池 格
第59回日本食品衛生学会 平成2年5月16~18日 東京都
2. 宮城県におけるツツガムシの生息実態調査第2報
○秋 山 和 夫 植 木 洋 御代田 恭子* 山 本 仁
(*現宮城県仙北食肉衛生検査所)
第26回宮城県公衆衛生学会 平成2年5月31日 仙台市
3. 宮城県における神経芽細胞腫マス・スクリーニング(第2報)
○清 野 陽 子 加 茂 えり子 白 石 廣 行 山 本 仁
第26回宮城県公衆衛生学会 平成2年5月31日 仙台市
4. 食品中の低沸点ハロゲン化炭化水素に関する研究
○菊 池 格 菊 地 秀 明 鈴 木 滋 勝 倉 由 美*
(*現宮城県石巻保健所)
第26回宮城県公衆衛生学会 平成2年5月31日 仙台市
5. ヒトパルボウイルスのELISA法によるAg/Ab検出法
○白 石 廣 行
衛生微生物技術協議会第11回研究会 平成2年7月26日 松山市
6. 食中毒情報データベースの構築について
○内 田 隆 夫 助 野 典 義 船 木 宏
東北食中毒研究会第3回全体会議 平成2年8月22日 上山市
7. 感染症サーベイランスのパソコン利用について
○三 浦 英 美 助 野 典 義
第14回東北防疫研究会 平成2年8月23日 上山市
8. EPIDEMIOLOGICAL ANALYSES OF LEPTOSPIROSIS IN MIYAGI PREFECTURE THROUGH 30 YEARS
○KAZUO AKIYAMA, HIROYUKI SHIRAISHI, HITOSHI YAMAMOTO
NAKAO ISHIDA
LEPTOSPIROSIS RESEARCH CONFERENCE 1990 1990. 9.24~26 松山市
9. 活性汚泥を用いた水中毒物の検出について
○石 川 潔 小 泉 俊 一*
(*宮城県阿武隈川下流域下水道事務所)
第29回日本薬学会東北支部大会 平成2年10月14日 仙台市
10. 分離曝気方式単独浄化槽における機能検査項目の統計的解析
○木 戸 一 博 白 地 良 一 田 手 潔* 杉 山 宏*
庄 子 卓 郎*
(*社団法人宮城県環境衛生整備協会浄化槽法定検査委員会)
第29回日本薬学会東北支部大会 平成2年10月14日 仙台市

11. 宮城県におけるOx高濃度の事例について

○仁平 明* 百川和子 小島秀行** 斎藤達夫***

(*現宮城県大崎保健所 **現宮城県消費生活センター ***現宮城県塩釜保健所)

第16回北海道・東北ブロック公害研研究連絡会議 平成2年10月18～19日 青森市

12. 台風通過による大気質の変化について

○小島秀行* 百川和子 仁平 明** 斎藤達夫***

(*現宮城県消費生活センター **現宮城県大崎保健所 ***現宮城県塩釜保健所)

第16回北海道・東北ブロック公害研研究連絡会議 平成2年10月18～19日 青森市

13. リコンビナント抗原を用いたB19IgM抗体測定ELISA法

○白石 廣行

第38回ウイルス学会総会 平成2年11月12日 東京都

Ⅲ 研究発表会

第9回 研究発表会

日 時 平成3年3月1日(金) 9:50~16:15
 場 所 宮城県保健環境センター大会議室
 主 催 宮城県保健環境センター

研 究 発 表

○印 発表者

座 長 白 石 廣 行 (微生物部)

10:00~10:45

1. 感染症サーベイランスのデータ処理とグラフ表示(Ⅱ)

— パーソナルコンピュータにおける試み —

保健環境センター情報管理部

○三浦 英美 助野 典義 船木 宏

2. ウイルス分離からみた, 県内の1989-90年冬季におけるインフルエンザ流行状況

保健環境センター微生物部

○御代田恭子(現 宮城県仙北食肉衛生検査所)

植木 洋 秋山 和夫 山本 仁

3. 食中毒事件および感染症サーベイランスにおけるサルモネラの検出状況

保健環境センター微生物部

○荒井 富雄 須藤 君子 高橋 成人 山本 仁

座 長 助 野 典 義 (情報管理部)

10:45~11:15

4. 先天性副腎過形成症マス・スクリーニング(第3報)

保健環境センター微生物部

○近野寿美枝

沖村 容子(現 宮城県大崎保健所)

白石 廣行 山本 仁

大浦 敏彦(東北大学医学部小児科)

5. 食肉中の抗菌性物質検査法の検討

保健環境センター微生物部

○管野 信一 白石廣行

梅津 幸司(現 宮城県気仙沼保健所)

山本 仁

座 長 小 野 研 一 (環境衛生部 現 宮城県仙南保健所)

11:15~12:00

6. GC-MS, SIMによる魚介類中の残留オキシソリン酸, ナリジクス酸, ピロミド酸の同時分析法

保健環境センター理化学部

○高槻 圭悟 菊池 格

7. 果物中の残留農薬について

— エンドスルフェン, CPCBS, NACの検出 —

保健環境センター理化学部

○佐藤 郁子 鈴木 滋(現 宮城県名取病院)

高槻 圭悟 菊池 格

百川 和子(現 大気部)

8. FPD-GLCを用いた食品中有機スズ化合物の分析法

保健環境センター理化学部

○鈴木 滋(現 宮城県名取病院) 菊池 格

昼 食 ・ 休 憩

12:00~13:00

座長 高槻 圭悟 (理化学部)

13:00~13:45

9. C₁₈カートリッジによる水中の農薬の分析法の検討
保健環境センター環境衛生部 ○小林 孜 白地 良一
10. 水道水の異臭味に関する研究 (第2報)
保健環境センター環境衛生部 ○高橋紀世子 木戸 一博
小野 研一 (現 宮城県仙南保健所)
白地 良一
11. 水道原水の有機炭素量とトリハロメタン生成能との関係
保健環境センター環境衛生部 ○木戸 一博 大槻 良子
小野 研一 (現 宮城県仙南保健所)
高橋紀世子 小林 孜 (現 理化学部)
白地 良一

座長 渡辺 丈夫 (環境管理課 現 保健環境センター大気部)

13:45~14:45

12. 色麻町平沢地区における生活雑排水対策調査結果
宮城県大崎保健所 ○四十物良一 (現 宮城県環境管理課)
高橋 正人 (現 宮城県廃棄物対策室)
大場 修 (現 保健環境センター水質部)
佐藤 由美 安斎 文雄 細矢 義隆
13. 有機リン系農薬の簡易分析法
保健環境センター水質部 ○新垣 康秀 (現 大気部) 渡邊はるみ
佐藤 勤 氏家 顕
14. 白鳥の給餌等に伴う迫川河川水への影響調査
保健環境センター水質部 ○高橋 誠幸 (現 大気部)
大庭 和彦 (現 宮城県環境管理課)
渡邊はるみ 八木 純 氏家 顕
15. 塩釜地方「伊達な環境づくり」活動方針策定調査事業に係る松島湾海水等調査結果について
宮城県塩釜保健所 ○高橋つね子 加藤 玲子 米倉 豊
千葉 孝男 宇野 和生 小葉松英行

座長 中村 栄一 (情報管理部)

14:45~15:30

16. 環境放射線監視システムの更新について
宮城県原子力センター ○加茂 泰彦 佐藤 健一
加賀谷秀樹 (現 保健環境センター大気部)
村上 弘
17. 風速揚子測モデルによるケーススタディ
宮城県原子力センター ○加賀谷秀樹 (現 保健環境センター大気部)
加茂 泰彦 佐藤 健一 村上 弘
18. 平成2年4月~9月におけるオキシダント測定結果について
保健環境センター大気部 ○小島 秀行 (現 宮城県消費生活センター)
百川 和子 仁平 明 (現 宮城県大崎保健所)
斎藤 達夫 (現 宮城県塩釜保健所)

座長 高橋 伸行 (環境管理課)

15:30~16:15

19. 酸性雨自動測定結果について (第二報)

保健環境センター大気部

○百川 和子

小島 秀行 (現 宮城県消費生活センター)

仁平 明 (現 宮城県大崎保健所)

氏家 愛子 (現 水質部)

斎藤 達夫 (現 宮城県塩釜保健所)

20. β 線吸収式浮遊粒子状物質計の精度管理に関する調査

保健環境センター大気部

○氏家 愛子 (現 水質部)

仁平 明 (現 宮城県大崎保健所)

佐藤 博明

斎藤 達夫 (現 宮城県塩釜保健所)

21. 国道4号名取バイパス沿道の騒音及び大気環境の実態について

保健環境センター大気部

○加藤 憲治

柳田 則明 (現 宮城県岩沼保健所)

佐々木俊行 (現 宮城県下水道課)

斎藤 達夫 (現 宮城県塩釜保健所)

IV 談 話 会

談 話 会

幅広く公衆衛生上の知見を得ることを目的として、所内外の講師に総説、最近のトピックス、現在の試験、研究等の話題を提供してもらい討論する会である。

原則として、毎月第3木曜日1時15分から所内会議室において開催している。

第101回（平成2年7月）

「WHOの感染症対策」

国立仙台病院 鈴木 宏 博士

第102回（平成2年10月）

「組換えDNA実験の概要と核酸プローブを用いた遺伝子の環境中でのモニタリング」

東北学院大学 遠藤 銀朗 博士

宮城県保健環境センター年報執筆要領

1. (原稿の種類) 調査, 研究論文および資料とする。

2. (原稿の執筆規定)

(1) 原稿はB5判(20×20字)横書き原稿用紙に楷書で明瞭に書く。

学術用語は学会の慣例に従う。

(2) 原稿は表題, 著者名, 抄録, 序文(またははじめに), 方法, 結果, 考察(または結果と考察), 謝辞, 参考文献の順序に準じて記載する。

資料も原則として, この順序に従って記載する。

(3) 著者に他機関の人を含む場合は, *印を付して脚注に記載する。

(4) 参考文献は, 最小限にとどめ, 本文中の引用箇所(1), 2)~4)のように肩番号を付して示す。

(記載方法)

雑誌: 著者名: 雑誌名, 巻, 号, 頁(西暦年)

単行本: 著者名: 書名, 版数, 頁, 発行所(西暦年)

(5) 図, 表は別終に記載し, 表題を付け(表の題は表の上に, 図の題は図の下に)それぞれ図1, 表1のように一連の番号を付け, 本部のあとにまとめて綴る。

図表の入る位置は, 本文中に赤字で示す。

図はそのまま製版できるようにA4版の指定用紙(オストリッチグラフ用紙)に, 黒インキで丁寧に書く。

(6) 写真は, 使用が不可欠の場合のみ, 強いコントラストを示すものに限って受付ける。

3. (原稿の提出) 原稿は毎年7月末日までに, 各部の編集委員に提出する。

執筆規定に従っていない場合は, 書き直しを求める場合がある。

原稿は返却しないので, 各自必要に応じコピーをとっておくこと。

編 集 後 記

今年の夏は、夏を余り意識しないで終わった夏であった。蟬の声をこれほど聞かなかった夏も記憶にない。

国内では、雲仙普賢岳の噴火を始め多くの出来事があったが、世界的には一昨年のベルリンの壁崩壊に続く東欧の一連の変革、イラクでの戦乱、そして連邦解体をも思わせるソ連の政変などまさに歴史の渦中の生きていると感じた一年であった。

しかし、どんな出来事も時間の経過とともに、人の心の中で風化して行く。故に記録することが大切なのだと思う。

今年も無事、諸兄諸姉の業績をまとめ年報を発刊することができたことに感謝しつつ、皆様の今後の更なるご活躍を期待します。

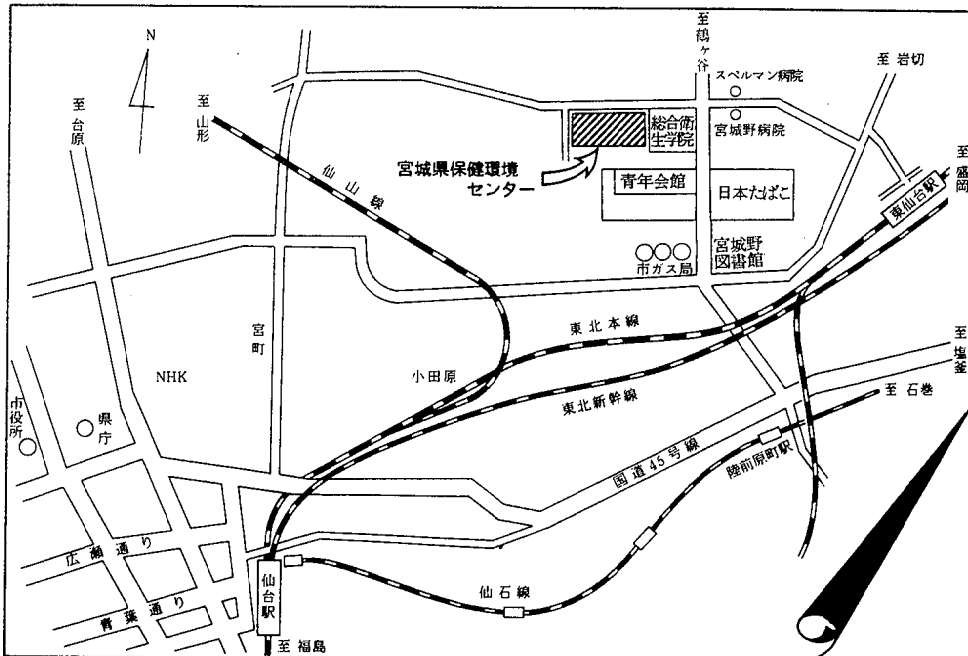
ご協力有り難うございました。

(高橋 記)

編 集 委 員

高 橋 富 基 (委員長)	荒 井 富 雄
助 野 典 義 (副委員長)	高 槻 圭 悟
二 戸 幸 子	阿 部 時 男
内 田 隆 夫	新 垣 康 秀
鍵 谷 真 男	大 場 修

宮城県保健環境センター



宮城県保健環境センター 第9号
(平成2年度)

印刷 平成3年11月

編集発行 宮城県保健環境センター

〒983 仙台市宮城野区幸町四丁目7番2号

電話 022-257-7181 (代)
